

特別研究

特別研究 A

前期・必修・4単位

Seminar A

担当教員 修士課程各指導教員

対面・遠隔の別

指導教員が指定する。

遠隔の場合の主なツール

指導教員が指定する。

授業の概要（内容）

2年間を通じて指導教員の指導の下に、自らが設定した特定課題について研究を行い、修士論文（作品）をまとめるための第1ステップとなる。自らが取り組む課題の研究あるいは作品制作に必要な調査、実験、見学、試作、習作などを、指導教員の指導の下に課題に応じて行う。授業はゼミナール形式で行われ、研究成果を発表し、意見交換と指導教員からの助言を受けながら進める。必要な学修をもって所定の単位とする。

特別研究 B

後期・必修・4単位

Seminar B

担当教員 修士課程各指導教員

対面・遠隔の別

指導教員が指定する。

遠隔の場合の主なツール

指導教員が指定する。

授業の概要（内容）

2年間を通じて指導教員の指導の下に、自らが設定した特定課題について研究を行い、修士論文（作品）をまとめるための第2ステップとなる。自らが取り組む課題に関して、さらに踏み込んだ調査、実験、試作、習作あるいは実制作などを、指導教員の指導の下に課題に応じて行う。「修士研究発表会」においてその成果を展示公開し、口頭発表を行い、大学院担当教員からの助言を受ける。授業はゼミナール形式で行われ、必要な学修をもって所定の単位とする。

特別研究 C

前期・必修・4単位

Seminar C

担当教員 修士課程各指導教員

対面・遠隔の別

指導教員が指定する。

遠隔の場合の主なツール

指導教員が指定する。

授業の概要（内容）

2年間を通じて指導教員の下に、自らが設定した特定課題について研究あるいは作品制作の第3ステップとなる。自らが取り組む課題に関して、修士論文（作品）をまとめるために、これまでの成果を整理し、検証や考察を加え、さらに進めた調査や、設計、モデル制作、シミュレーション、あるいは実制作を指導教員の指導の下に課題に応じて行う。「修士研究発表会」においてこれまでの成果を口頭発表する。授業はゼミナール形式で行われ、必要な学修等をもって所定の単位とする。

特別研究 D

後期・必修・4単位

Seminar D

担当教員 修士課程各指導教員

対面・遠隔の別

指導教員が指定する。

遠隔の場合の主なツール

指導教員が指定する。

授業の概要（内容）

特別研究Dは、2年間の集大成として修士の研究としてまとめ上げる最終ステップであり、2年後期に履修する。「修士研究発表会」は修士の研究（作品）の完成前の確認を行うもので、大学院担当教員からの助言と指導教員の指導を受け、修士研究の最終成果として論文・作品制作をまとめ上げる。

なお一級建築士実務経験資格の認定を希望する者の「特別研究D」においては実践的テーマを設定した建築修士設計を行うものとする。修士課程の成果として、実際の社会や現代建築の問題を意識した実務設計に即した課題に取り組む。

評価方法

中間の修士研究発表会と最終の修士研究発表会・最終試験において論文・作品審査および口頭発表を行う。その上で、原則として卒業研究展覧会「カオス」にて公開することとする。

評価は指導教員である主査の他に、副査2名の計3名による審査会により行われる。

特別研究 E

前期・必修・6単位

Seminar E

担当教員 博士後期課程各指導教員

対面・遠隔の別

対面を基本とするが、感染症等の影響によっては部分的に遠隔にて実施する。

遠隔の場合の主なツール

Microsoft 社の Teams を用いる。

履修制限等

特にない。

到達目標（目的含む）

研究の理念、目的、先行研究の理解、研究の組み立て、研究方法、分析や考察、結果のまとめや今後の課題の整理、さらに発表や論文などの研究のプロセスを修得する。

授業の概要（内容）

博士後期課程における各自の研究内容に対応して研究指導教員が研究指導を行う科目である。特別研究 E では、研究の方針や研究方法を明らかにし、既往研究の確認、予備調査、関連資料の作成、学会発表などを行う。成果については、大学院博士後期課程の研究指導及び教育担当教員全員による中間発表を行い、担当教員以外からの指導も受け、研究を充実させる。

授業計画

ゼミ形式で行い、時間割外集中として開講する。後期（10月を予定）に研究成果を口頭にて発表する。

授業時間外学習

博士後期課程の研究であるので、授業時間外学習が中心となる。

評価方法

各自の研究成果に応じて評価する。

指導方法

ゼミ形式で行う。

使用テキスト

各自の研究テーマに応じて指導教員が適宜指示する。

参考テキスト・URL

各自の研究テーマに応じて指導教員が適宜指示する。

各自準備物

各自の研究テーマに応じて指導教員が適宜指示する。

実習費

調査旅費、学会年会費、投稿料、研究上必要な消耗材料などの一部は指導費を利用できるが、個人負担が必要となることもある。

その他

各自の研究テーマに応じた学会に所属し、学会への論文投稿、口頭発表を積極的に行う。また、制作を伴う研究の場合は、コンペティション形式の展示会等へ積極的に参加し、客観的な評価を受ける。

特別研究 F

前期・必修・6単位

Seminar F

担当教員 博士後期課程各指導教員

対面・遠隔の別

対面を基本とするが、感染症等の影響によっては部分的に遠隔にて実施する。

遠隔の場合の主なツール

原則として Microsoft 社の Teams を用いる。

授業の目的と到達目標（学修成果）

研究の理念、目的、先行研究の理解、研究の組み立て、研究方法、分析や考察、結果のまとめや今後の課題の整理、さらに発表や論文などの研究のプロセスを修得する。

授業の概要（内容）

博士後期課程における各自の研究内容に対応して研究指導教員が研究指導を行う科目である。特別研究 F では、特別研究 E で定めた研究方針や研究方法に従い、具体的に研究を遂行する。得られた成果については、学会発表や論文投稿などを行う。研究成果については、大学院博士後期課程の研究指導及び教育担当教員全員による中間発表を行い、担当教員以外からの指導も受け、研究を充実させる。

授業計画

ゼミ形式で行い、時間割外集中として開講する。前期（5月を予定）に研究テーマと準備状況を、後期（10月を予定）に研究成果を口頭にて発表する。

授業時間外学習

博士後期課程の研究であるので、授業時間外学習が中心となる。

評価方法

各自の研究成果に応じて評価する。

指導方法

ゼミ形式で行う。

使用テキスト

各自の研究テーマに応じて指導教員が適宜指示する。

参考テキスト・URL

各自の研究テーマに応じて指導教員が適宜指示する。

各自準備物

各自の研究テーマに応じて指導教員が適宜指示する。

実習費

調査旅費、学会年会費、投稿料、研究上必要な消耗材料などの一部は指導費を利用できるが、個人負担が必要となることもある。

その他

各自の研究テーマに応じた学会に所属し、学会への論文投稿、口頭発表を積極的に行う。また、制作を伴う研究の場合は、コンペティション形式の展示会等へ積極的に参加し、客観的な評価を受ける。